

2016年5月16日

要望書

千葉県知事 森田健作 殿

日本鳥類標識協会会長

千葉 晃



行徳野鳥観察舎存続を求める要望書

日本鳥類標識協会(以下、本協会と略称)は、1986年2月に創立された野生鳥類の調査を行う会員から構成される任意団体(会員約390名)で、環境省が(公財)山階鳥類研究所へ委託して長年実施している「鳥類標識調査」へ、ボランティアとして参加・貢献しております。この調査により、国内外における鳥類の渡りをはじめ、寿命、生態、個体数の変動等が解明され、その成果は生物多様性の実態把握、野鳥の保護活動、鳥インフルエンザ関連の疫学調査等に広く役立てられてきました。また、本協会は定期的な機関紙の発行と研究会の開催を行い、情報の共有と普及啓発に取り組んでおります。

本年(2016年)12月には、創立30周年記念大会を行徳鳥獣保護区(行徳野鳥観察舎)にかかわる本協会員の協力を得て、市川市で開催する運びです。今般、行徳野鳥観察舎閉鎖の報に接し、本協会は行徳野鳥観察舎が果たしてきたこれまでの役割を改めて認識し、閉鎖された場合の損失を深く憂慮して以下の要望をさせていただくこととなりました。

ご存知の通り、行徳鳥獣保護区は、60～70年代の高度成長期に新浜と呼ばれる湿地帯が開発によって埋め立てられた時、「新浜を守る会」を中心とした自然保護運動と地域開発とのいわば妥協案として設立された保護区です。その中に建てられた行徳野鳥観察舎は、鳥や自然の魅力を知ってもらうため、環境学習の場として、小学校等の多くの団体に利用され、野鳥愛好家ばかりか近隣の方々にとっての憩いの場としても親しまれてきました。さらに、日本で初めて積極的な環境の維持管理が行われた保護区として、後に続く各地の野生鳥獣の保全を目的とした場所、いわゆるサンクチュアリの手本となってきました。また、当施設の利用は一般客にとどまらず、1980年の10月には、スペイン国王ご夫妻が国賓として来日された際に、当時の皇太子ご夫妻(現在の天皇皇后両

陛下)、常陸宮殿下と共にご来館されたこともあります。1982年には、光栄にも昭和天皇の行幸を戴きました。

観察舎とその周辺地域は、学術研究上も重要な役割を果たしてきました。鳥類標識調査が長年続けられ、日本初のヨーロッパコマドリや千葉県初のヒゲガラヒゲガの記録も標識調査に因るものでした。また、NPO法人行徳野鳥観察舎友の会の職員によるカモメ類の鳥類標識調査においては、標識された個体がロシアの北極海沿岸域を含め、国内外の様々な場所で観察され、また何年も続けて放鳥場所に戻るといった興味深い習性が明らかにされました。

現在、行徳鳥獣保護区では、水鳥にとって必要な淡水源が雨水のほかになく、生活排水を水田のような浅い池に導いて、水質浄化と水鳥誘致を同時に実現させるという試みも全国にさきがけて続けられています。湿地の復元は行徳の原風景の再現にもつながり、多様な生物相が育まれつつあります。

関連施設としての野鳥病院について言及すれば、これほど熱心に傷病鳥の保護に取り組んでいる施設は関東には例がなく、全国レベルでも同様の施設を探すのは難しいほどです。また、隣接の宮内庁新浜鴨場は伝統的な鴨猟の技術を伝承する施設として、文化的にも重要な場所となっています。

これらのことから、行徳野鳥観察舎の地域社会及び鳥獣保護における貢献度とその重要性は、疑う余地がありません。この観察舎は野生鳥類を中心とした環境保全や学術研究の基盤、市民への啓発とレクリエーションの場として、全国でもトップクラスといえましょう。これを失うことは千葉県や市川市のみならず、国内的にも大きな損失です。このため、本施設を閉鎖するのではなく、舎屋の耐震性を上げる等の補修工事を行うか、現在の観察舎に代わる建物の再建を強く要望いたします。

以上

日本鳥類標識協会

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115 (公財)山階鳥類研究所内

Tel : 04-7182-1108 Fax : 04-7182-4342

E-mail: secretariat@birdbanding-assn.jp

URL: <http://birdbanding-assn.jp/>